

学校教育目標	自ら学び ともに考え 行動する台小の子 ○ 学ぶ楽しさを知り、学び続ける力を育てます。(知) ○ 自分を大切にし、人を思いやる心を育てます。(徳) ○ 命を大切にすると、たくましく生きる力を育てます。(体) ○ まちとふれあい、まちを大切にすると態度を育てます。(公) ○ 様々なことに興味をもち、進んでチャレンジする意欲を育てます。(開)				
	学校概要	創立 51 周年	学校長 宮崎 里子	副校長 中村 勇太	2 学期制
児童生徒数： 243 人		主な関係校： 六つ川中学校 六つ川小学校 六つ川西小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	六つ川中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自ら学ぶ力(自立)> <ともに考える力(共生)> <行動する力>	六つ川中学校 六つ川小学校 六つ川台小学校 六つ川西小学校	「自立のための基礎力の育成」 9年間で「自立する力」「協働する力」を身に付けたい子どもの育成を目指し、具体の姿を設定し、各校で取り組む。各部会の取組は以下のとおりである。 学習指導部会→授業研究会を実施し、9年間の学びへの理解を深める 領域指導部会→地域との交流授業等と授業の中のICT活用の情報共有を進める。 児童指導部会→ブロックの「あせかけ運動」の推進とブロック内小中交流を進める

中期取組目標	○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら活動への関心を高め、実践的な学びを作ります ○人とのつながりを大切にすると子どもを育てます ○学びやすい学校環境を整えます ○データを活用し教育活動を充実します ○子どもの意見を取り入れながら中学校ブロックの「あせかけ運動」に取り組みます
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①単元目標を明確にし、その中で伸ばす資質・能力を明確にした授業づくりを目指す。本時のめあての確認と振り返りの時間を設け、子どもが判断したり、選択したりしながら主体的に学びを進められるようにする。②「自ら学び ともに考え 行動する台小の子」をテーマとし、主体的、協働的に自己調整力を高めていこうとする姿勢を育成する。
担当 重点研推進	
徳 道徳教育	①「考える道徳」「議論する道徳」を目指し道徳の時間に課題を設定する問題解決的な学習を実践し、一人ひとりの道徳性を育む。②道徳科年間指導計画を見直し、自らの課題として道徳の授業に取り組んでいける計画を立てる。③重点研究会を通して多面的、多角的な見方を広げる指導ができるよう授業力の向上を図り、担任は、年1回研究授業を行う。
担当 道徳部	
体 健康教育	①家庭と連携し規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培うとともに、食育や保健教育、安全教育を実施する。②運動集会を柱に、児童が運動の楽しさを味わい、外遊びを盛んにしたり体力の向上に目を向けたりすることができるようにする。③学校保健委員会を年に2回実施し、健康について考える機会を設ける。
担当 体育部	
公 自分づくり教育 (キャリア教育)	①地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で自分の思いを表現しながら一人ひとりが自己有用感を高めるようにする。②「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、子ども自身の変容や成長を自己評価できるようにする。
担当 生活・総合、特活部	
いじめへの対応	①学校としてのいじめ未然防止に対する方針を職員で共通認識できるように、「学校いじめ防止基本方針」を年度初めに共有する。②地域・保護者・職員・児童がいじめ未然防止に対する取組を共通認識することができるように「横浜子ども会議」等でいじめについて話し合う機会を意図的に設定し、それぞれの立場の考えを「学校いじめ防止基本方針」に反映する。③いじめ認知された案件の経過観察を丁寧に行い、再発防止に努めることができるように、いじめ防止対策委員会を月1回以上定例開催する。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、チームメンバーが学びを深めていきたい教科領域に関する示範授業を参観したり、授業力向上のための研修を計画したりし、月1回程度の活動を継続して行う。②教務会を定期的に行い、学校運営に関わる案件の計画や共有を行う。
担当 教務部・メンターチーム	
地域連携	①六つ川中学校ブロックの児童生徒が行うリーダー会議に参加し、「あせかけ運動」を連携して取り組んでいく。②地域コーディネーターを中心に学びの支援ボランティアと連携して校内での学習補助を行っていき、よりよい学びや学習環境につなげていく。また、生活科や総合的な学習の時間などの学びに、地域とのかかわりがもてるようにする。
担当 教務部	
児童指導	①指導環境を整えるために、六つ川台スタンダードを基にした児童の様子を共有し、適宜内容の加筆修正を行う。②丁寧な児童理解(アセスメント)を行うために、月1回以上児童情報共有の時間を設定したり、年2回以上YPアセスメントを実施したり、各種アンケートや健康観察を活用したりする。
担当 児童指導	
特別支援教育	①手立ての引継ぎや校内研修の実施等、配慮の必要な児童に対しての共通理解を定期的に行う。②特別支援教育支援員やボランティアの活用を図り、校内支援体制を整える。③児童や保護者の困り感に寄り添い、そよかぜルーム(特別支援教室)において個に応じた学習支援・登校支援指導の充実を図る。④外国籍や外国につながる児童一人ひとりの状況を的確に見取り、児童本人の日本語力向上支援および保護者支援の充実を図る。
担当 特別支援コーディネーター	
情報教育	①情報活用能力の向上のために、ロイロノートを中心に様々なアプリやサービスを有効活用する。また、個別最適な学習の実現に向け、デジタルドリルの効果的な使用を図っていく。②情報モラルや機器の正しい使い方を適切に指導し、自他を大事にしながらルールを守ってICT機器を活用できるようにする。
担当 GIGA	